

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆様方には、平成30年という輝かしい年をご壮健にてお迎えになられたことと、心からお慶びを申し上げます。

昨年は町行政進展や住民福祉の増進の上にそれぞれの立場で職務に精励していただき、大きな成果を挙げることができました。心から感謝を申し上げます。去年を振り返っても、様々な事業を皆様方には遂行をしていただきました。武蔵野の落ち葉堆肥農法が日本農業遺産に認定をされ、「おいしくなあれ富のいも」完成、さらには健康長寿について埼玉県から優秀市町村表彰をいただきました。そして、PJ（マレーシア・ペタリングジャヤ市）との姉妹都市提携、さらには地方自治法施行70周年を記念した式において総務大臣表彰をいただきました。そして、本当に数え切れない大きな成果を残していただいて心から感謝を申し上げます。

特に、地方自治法施行70周年記念表彰受賞の理由ですが、創意工夫により優れた施策を実施し、地方自治の発展に寄与したということでございます。これも、皆さんのお力のおかげであり、特に、協働のまちづくりが高く評価をされました。住民の皆さんと共に様々な地域の課題を解決し、町政の進展に尽力したということで、主体はやはり住民の皆さんであり、それを支えていただいたのが皆さんだと思います。あらためて、受賞をさせていただきまして、少子高齢化、人口減少社会を迎えて、地方自治体の役割、魅力ある町をつくる上で非常に重要であることを感じました。

そして、今年は2つのことに力を入れていきたいと思っています。1つが「スピード感のある政策実現」。そしてもう1つが「職員の皆さん、住民の皆さんとの対話」を大事にしていきたいと考えています。かねてから、いい町をつくるには1つの方程式があるのではないかという話をさせていただいております。「良い政策をつくる」ということ。そして、「多くの住民の皆さん、職員の皆さんと対話を重ね、その中で方程式を起こしていく」。そして3つ目が「住民の皆さん、職員のみなさんが町づくりに参画していく」この3つの要素が大事なのだと考えております。今回は、今まで町を回転させるエンジンとして政策研究所を設けて、政策の研究をしてまいりました。住民の皆さんと、職員と有識者の方に入ってください、町の大事な課題というものを政策研究し、その成果によって町づくりが一

定程度推進をしてきたと考えています。一方で、多様化する住民ニーズや社会への対応ということでは、若干後手になってしまうことがあります。今年は、仮称ではありますが、魅力ある町づくり推進戦略会議というようなものを設けて、多様な外部の有識者に入っただき、議論を交わし、そこで新しい政策立案を進めていきたい。ある意味では今までの政策研究にターボエンジンを搭載し、イノベーションをおこしてもらおうと思っています。

そして2つ目が職員の皆さんとの対話です。昨年、消防団に入っていたいただいた若手職員と意見交換をさせていただきました。新たに採用する職員の皆さんにも、消防団員に入っただけだこうと思っているわけですが、1年間、果たしてどうであったのかということ、職員の皆さんから聴き、貴重なご意見をたくさんいただきました。土曜日、日曜日、仕事があるので消防団活動に参加できなくて申し訳ないという声もありましたし、また、仕事や勉強、研修をしながら消防団活動を地域の中ですることは非常に負担であるようにも感じたところがございます。あらためて職員の皆さんと対話をする中で、皆さんの状況というものが少し見えた気がします。今年はさらに、職員の皆さん、住民の皆さんとも対話を重ねて、皆さんがより働きやすい環境をしっかりと作っていきたいと考えています。

そして、私自身の今年の抱負ですが、毎年私は新年に産土（うぶすな）神社を参拝しています。その時に、必ず啓示のようなものをいただいています。今年はどんな啓示なのか楽しみにしていたのですが、まだまだ自分の中には『業』というのでしょうか、『カルマ』というのでしょうか、今までの過去の体験や経験の中からずっと引きずってきたもの、良いものもありますし、悪いものもありますが、そういったものに縛られている自分があるなと感じました。今年はどんなことが浮かんできたかということ、坂村真民さんの

「鳥は飛ばねばならぬ 人は生きねばならぬ」

この言葉が繰り返し繰り返し自分の心の中に浮かんできました。その詩を皆さんにも紹介したいと思います。

鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ
怒濤の海を
飛びゆき鳥のように
混沌の世を
生きねばならぬ
鳥は本能的に
暗黒を突破すれば
光明の島に着くことを知っている
そのように人も
一寸先は闇ではなく
光であることを知らねばならぬ
新しい年を迎えた日の朝
わたしに与えられた命題
鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ

という詩ですけれども、この詩に大変感銘を受けました。

この詩はどん底を体験した人には非常に胸にくると思いますし、今悩み苦しんでいる人には勇気や希望を与えてくれると思います。

「人は生きねばならぬ」だとすれば、どんな風に生きていくのか。それは皆さん一人ひとりが自分の中で考えて自己実現していき、人生を生き、大きな成果を自分の人生の中に生み出してほしいなと思います。

わたしにとって、「生きねばならぬ」ということを考えていた時、昨年素敵な出逢いがありました。広報みよしの最後のページにも書かせていただきましたが、相川圭子さんという方です。ヒマラヤで瞑想の修行をされた方で、たまたま都内の本屋さんに行きましたら、ブックフェアがありまして、相川圭子さんの本がたくさん並んでいたんですが、それを何冊か見ましたら、国連でもスピーチをしており、この人は本物の人なのだろうなと思いま

して、その後、著書を数冊求めて読ませていただきました。非常にシンプルな教えで、ぜひこの人にお逢いしたいと思い、何度か講演に出させていただきます。大変凛とした静かな方で、しかもお話しする時に、ちゃめっけのある笑顔でユーモアなお話をされる方でした。この方が言葉の中で「生きるということは愛である」ということを言っておられました。愛という言葉は皆さんも私もよく聞くのですが、特にその方の言葉に感銘を受けました。考えてみると、私自身も父母の愛によって生まれ、小さい頃から大勢の人に愛を注がれ、こうして生かされています。愛がないと人は生きていけないということをその言葉で直感的に感じさせていただきました。

そこから飛躍するかもしれませんが、町づくりもやはり愛なのかなと思います。自分も住んでいる町を愛し、その町の魅力、資源、可能性に愛を注ぎ、そのことにより様々な事業を通してその町がクローズアップされ、その姿を現していく。そしてその結果、その町によって私たちは抱かれ、愛を注がれ、幸せになる。町づくりも愛が大事であると感じたところです。

「人は生きねばならぬ」この言葉と向き合って仕事や人生と生きていくことが大事だと思います。

今年1年間が皆さんにとってより充実した年であることを心からご祈念申し上げます。1年間、どうぞよろしく願いいたします。